No.7 September 2024
国際開発研究者協会 SRID
キャリア開発事業編集部 career@sridonline.org

SRID キャリア開発

SRID キャリア開発

国際開発研究者協会（SRID: Society of Researchers for International Development）は、国際開発関連機関（国際機関、政府関係機関、NGOs、開発コンサルタント企業等）で働く事を希望する人達のキャリア開発を支援するため、カウンセリング、能力開発向上研修等のキャリア開発事業を実施しています。その一環として、キャリア開発事業受講生や国際開発関連機関への就職を目指す人達にキャリア開発に関する情報を提供するため、「SRID キャリア開発」を年２回、３月と９月に配信しています。国連機関、世界銀行（世銀、WB）、アジア開発銀行（アジ銀、ADB）、アフリカ開発銀行（AfDB）、欧州復興開発銀行（EBRD）、国際協力機構（JICA）、開発コンサルタント企業等の国際開発関連機関に勤務経験のある SRID 会員の知見とネットワークを活かし、SRID ならではの情報を発信しています。

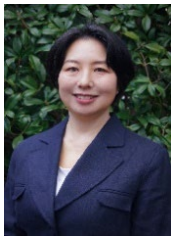
第７号では北丸薫子 SRID 会員の日本赤十字社・赤十字国際委員会、国連等における、紛争地域での人道支援、復興開発に関するキャリアのご経験と、それに基づいた国際機関などでのキャリアをゲットする為の７箇条及び 2024 年７月の SRID ジャーナル（SRID 設立 50 周年記念号）に寄稿した、“SRID キャリア開発事業の紹介”の抜粋を掲載しました。

外資系金融機関から
国際人道支援の現場へ転職
−チャンスの神には前髪しかない＊−

9.11 とよばれるアメリカ同時多発テロ事件から、今年の９月で 23 年経ちます。今この記事を読んでいる貴方は、2001 年の９月 11 日のあの時、どこで何をしていたでしょうか？中高生だった方や、まだ小学生で国際ニュースも事の重大さにもピンと来なかった方もいるかも知れません。それでも飛行機がビルに激突し、ビルが崩れ落ちる映像を見て驚いたのではないでしょうか。私はあの年、イラクで国連の人道援助プログラムのスタッフとして働いていました。９月 11 日のあの時は、帰国休暇中で、京都の実家でお風呂上がりにテレビのニュースを見ていました。通常のニュースが中断され、飛行機が米国ニューヨークの世界貿易センタービルにぶつかる映像に切り替わり、ビルが崩れ落ちた瞬間には、思わず叫んだ事を憶えています。

事件のすぐ後に、パレスチナのアラファト議長がこのテロを非難する声明を出し、アラブ諸国が次々に同様の声明を発表する中で、イラク大統領だったサダム・フセインだけが、ざっくり訳すと「米国には当然の報いだ」というコメントをしたのです。（後日サダムは、米国民に対して哀悼の念を表すＥメールを送ったそうですが、それは公にはなりませんでした。）そして、米国大統領が「テロとの戦い」を宣言し、アフガニスタンの次はイラク、という風に、米国主導のイラク戦争開戦へと時計の針が回り始めました。公式な理由は「イラク政権が大量破壊兵器を製造しているから」でした。結局大量破壊兵器は見つからず、もっと他に色々な理由があった様です。このように 9.11 事件後、イラクをめぐる情勢は一気に緊迫していきました。

そんな中で、イラクにいた私たち国連職員は仕事を続けていました。人道支援プログラムと呼ばれていても、10 年も続くと食料や医療の緊急援助から、地雷除去から始まる教育や医療体制の整備に向けた支援や農業活動の支援へと、実質的には復興・開発支援に様相が変わってきていました。そういった中長期のプログラムを進めると同時に、戦争が始まった場合の職員の退避の方法やプログラムの処置などの緊急対処計画を立てていました。そして 9.11 事件から１年半後に米国主導で多国籍軍によるイラクへの攻撃が始まり、三週間後にバクダッドは陥落しました。イラクは多国籍



北丸　薫子（きたまる かおるこ）　米国シラキュース大学経済学士、英国サセックス大学経済学ポストグラデュエート・ディプロマ、英国バーミンガム大学国際学修士。国際協力センター（JICE）、英文ビジネスメディアなどを経て、ICRC 赤十字国際委員会・日本赤十字社ボスニア・ヘルツェゴビナ・プロジェクト代表、WFP イラク事務所オブザーバー、国連イラク人道援助プログラム企画官、国連コンゴ民主共和国 PKO ミッション武装解除官を歴任。2018 年に帰国、内閣府国際平和協力本部事務局で人材育成専門官として若手の国際平和協力人材の育成を担当する。現在は、国際投資アドバイス、体験型観光コーディネーショングループ「アンタングラーズ」代表。英語、仏語、関西便に堪能。

の暫定統治下に置かれ、国連のプログラムも多国籍軍による連合暫定施政当局に移行することになりました。

国連コンゴ民主共和国ミッション（MONUC）時代の筆者

私達の業務は、援助プログラムの引き渡しへと変わりました。そして、2003 年 8 月にはバクダッドの国連現地本部はテロによって爆破され、私達のプログラムを率いていたデ･メロ国連事務総長特別代表を含む 22 人が命を落としました。幸運にも、また私は休暇でイラク国外にいたのですが、この事件の後、私を含む大半の国連スタッフは悪化する治安のせいで、イラクに戻ることはありませんでした。21 年の月日が経った今でも、あの事件を思い出すと言葉では言い表せない気持ちになります。しかし、イラクでの仕事を終えた後、1 年後にはまた、懲りもせずに国連平和維持軍の展開するコンゴ民主共和国へと飛ぶ自分がいました。着任してから半年程で、人道支援の部署から武装解除や元ゲリラ兵士の社会復帰などを担当する部門に異動させてもらい、主にルワンダ国境の東部地域で反政府武装組織への投降を促すネゴシエーターとして働きました。

さて、ここまでお話しすると、こんな壮絶なキャリアを歩んできた女性なら、初めから強い意志を持ってキャリア形成に挑んでいたに違いない、世界の平和や人道へ燃える様な熱意を持っていたに違いない、と思われるかも知れません。ところがどっこい、学生だった頃の私は何となく国際関係の仕事をしたい、国連にもちょっと憧れるけど、とにかく就職をしてお洒落で自由な暮らしをしたい、と思っていました。海外というと、日本よりは自由度が高い様に見えた西欧諸国のことを考えていましたし、発展途上国というと、学生の時に訪れた、当時はまだ貧しかった中国とマカオしか知りませんでした。そんな調子で、バイリンガルを売りにして、気まぐれに転職を繰り返しました。

この転職の繰り返しは、私がいい加減だっただけでは無い事も付け加えさせていただきましょう。私が働き始めた 90 年代の当時は、セクハラという言葉さえ誰も知らない状況で、ジェンダー差別やセクハラが公然と行われていました。私は我慢できずに、よりマシな職場を求めて転職を繰り返していました。そして、給料も抜群によかった外資系金融会社の東京支店で働いていた頃、とても派手ないわゆる「セレブ」な生活をする人達に囲まれていました。しかしある時、その空虚さに嫌気がさしたのです。その時に何か引き金になる事があったのかどうか、今では憶えていませんが、とにかく丸の内のとても綺麗なビルの 25 階のオフィスから、高速エレベーターで 1 階のロビーに降り、そして日本赤十字社に電話をかけました。赤十字社に知り合いなどもいなかったのですが、学生の頃にジュネーブの赤十字関係の研究所でインターンをしたので、日本の赤十字社に挨拶に行きたいと申し出ました。今思っても凄い心臓の強さだったと呆れます。そして、物珍しさからか、迎え入れてくれた日本赤十字社の国際部の方と談笑するうちに、建築図面を読めてボスニアに行ってくれる人材を探している、と聞かされました。偶然にも私は大学で建築学も少し学んでいたのです。すぐにその仕事を受け、家に帰ってから地図でボスニアを探しました。そして三週間後には、赤十字国際委員会と日本赤十字社の共同プロジェクトを管理すべく、ボスニア・ヘルツェゴヴィナへの飛行機に乗っていました。

そこで約 9 ヶ月半、内戦で荒れ果てていた知的障害者施設を建物と中身の両方から復興する仕事をしました。この経験が私の人生観を 180 度変えることになりました。**自分がちゃんとした仕事をしていないと誰かが死ぬという責任感と、自分の仕事によって着実に誰かが助けられるという充実感によって、自分の存在意義を生まれて初めて感じることが出来た**のです。ボスニアでの経験は大きな自信にもなり、人道援助や開発援助以外の仕事をすることはもう考えられませんでした。日本に帰ってから 2 年程、大阪で日本国際協力センター（JICE）の研修コーディネーターという発展途上国から日本に色々な職業研修に来た人達の研修業務を監理する仕事をさせてもらい、様々な分野の技術を垣間見、色々な国の人に出会い、新しい経験を積ませてもらいました。そうこうするうちに、200 通程も出した国連への応募書類のうちの一つが、国連世界

食料計画（WFP）のロースターに通り、そこからイラクへ行ってみないかとの連絡が入ったのです。またもや二つ返事をし、その後は冒頭にお話ししたような経緯につながるわけです。

私のキャリアに対しての姿勢は、キャリア形成の青写真を提供してくれるような教科書的なものではありませんが、今後進むべき道を探している皆さんの参考にはなるでしょう。危ない経験や悲しい経験もしたし、世の中の不条理に憤り、自分の力があまりに小さいことに落ち込むこともありました。それでも、この業界に飛び込んだことに後悔は全くありません。**自分が世界にとってポジティブな力の一部になれているからです。**ですから、これから開発協力や平和協力、人道支援の仕事をしたいと思っている若い方達、もしくは中堅だけど国際機関はこれから、という方達に伝えたいことは、初めから何か確固たる目標を持っていなくても大丈夫、成り行きでなってしまっても構わない、目指していた職種や職場でなくてもとりあえずやってみること。畑違いでもオッケー。全力でやっていると全ての辻褄が合って来るから心配しないで、ということでしょうか。以下は、もっと具体的なアドバイスです。

国際機関などでのキャリアをゲットする為の７箇条

（１）“Where there is a will, there is a way”「意志のあるところに道はある。」絶対にある。そのうち必ず見つかる！

（２）「チャンスの神様には前髪しかない＊」チャンスに巡り会えばとりあえず掴む。心配事や細かいことは掴んでから何とかする。

（３）語学が全てでは無い。けれど言葉はコミュニケーションの基本の道具であり、人となりをも表す。日々上達を目指す。

（４）フィールド経験や実際の業務経験を積む。旅をし、本を読み漁る。

（５）謙遜は美徳ではない。できることはできると言っていい。

（６）他の人が持っていないスキルや国際機関に足りないスキルを身につける。

（７）話し方や態度、身だしなみや基本的なマナーなどに気を付け、自分の好感度を上げる努力をする。

Good Luck!

＊この言葉は、ギリシャ神話のカイロスという神からきているものです。 カイロスは頭に特徴があり、前髪は長く、後頭部は禿げているそうです。カイロスは、ギリシャ語で「機会（チャンス）」を意味し、後ろ髪を掴もうとしても掴めないことから、チャンスはすぐに捉えなければ、後から捉えることはできない、という意味で使われます。（日経 xwoman アンバサダーブログ Terrace 小齊寿美代　より）

SRID キャリア開発事業の紹介（1）＊

事業実施状況　キャリア開発事業ではカウンセリング・研修・懇談会・広報活動を行っており、表１は各活動の実績を示しています。2016 年度に事業を開始して以来、2023 年度末までに、総計 1,629 名の受講者を対象として 224 件の活動を実施しました。活動別の実績は表１の通りです。

表１　キャリア開発事業実績（2016～2023 年度）

	2016		2017		2018		2019		2020		2021		2022		2023		合計	
活動	件数	受講者数	件数	受講者数	件数	受講者数	件数	受講者数	件数	受講者数	件数	受講者数	件数	受講者数	件数	受講者数	件数	受講者数
カウンセリング	10	10	18	20	18	22	7	15	18	19	28	28	26	26	15	15	140	155
研修・懇談会																		
(1)学生団体等との連携協力	1	27	4	30	5	34	3	32	終了								13	123
17(2)出張講座	6	73	18	366	23	427	12	193	3	52	1	11	0	0	0	0	63	1,122
(3)国際開発プロフェッショナル研修（IDPC）	事業開始２０２１年度										1	13	2	19	1	21	4	53
(4)国際開発分野で働く女性のためのフォーラム	事業開始２０２１年度										1	130	2	16	1	30	4	176
合計	17	110	40	416	46	483	22	240	21	71	31	182	30	61	17	66	224	1,629
広報活動																		
(1)ロスター登録者数（累積）	事業開始２０２１年度											31		47		78		78
(2)『SRID キャリア開発』発行	事業開始２０２１年度										2		2		2		6	

SRID キャリア開発

SRID 講師の業務経験　SRID 会員の多くは、国際機関・日本の国際開発関係機関・開発コンサルタント企業等に於ける経験を通じて得られた、国際開発協力に関する豊富な知見を持っています。表 2 は 2024 年 3 月 31 日時点での SRID 会員が経験した国際開発関係機関の内訳を示しており、国連本部・国連機関及び OECD が 18 名、国際開発金融機関が 16 名、日本の国際開発関係機関が 22 名、開発コンサルタント企業が 17 名となっています。SRID のキャリア開発事業の強みは、これらの国際開発協力の専門家が、実務経験に基づいた知見をカウンセリングや研修を通じて受講者と共有していることです。

表 2　SRID の会員が経験している国際開発関係機関（2024 年 3 月 31 日時点）

国連、国連機関及び OECD	国際開発金融機関	日本の開発関係機関	開発コンサルタント企業
国連本部　4	ADB 3	JICA（OECF を含む）17	
ESCAP 1	AfDB 1	JBIC 3	
FAO 1	EBRD 1	FACID 2	
IFAD 1	IDB 1		
ILO 2	WB 7		
UNDP 3	IFC 3		
UNEP 1			
UNHABITAT 1			
UNIDO 1			
WFP 1			
OECD 2			
合計　18	合計　16	合計　22	合計　17
総計　73			

カウンセリング

無料カウンセリングは、事業開始以来一貫して提供されている事業のバックボーン的な活動です。相談内容は、開発の仕事に携わりたいがどのような選択肢があり、留学も含め、どのようなことを学び、どのように実務経験を積む必要があるかというキャリア形成全般に関わるものから、特定の国際機関のポジションに応募するにあたり、応募書類や CV の作成、コンピテンシー・インタビューの準備の仕方や心得に関するアドバイス、また採用後のキャリア形成に関わるものまで多岐にわたります。受講者の志望先と専門分野を考慮し、講師を選定しています。講師は個人のボランティアとしてキャリア開発事業に参加していますので、受講者は組織のしがらみに気兼ねすることなく本音ベースで相談することができます。

ボックス 1　カウンセリングを受けた受講者の声

A さんのケース（海外大学院卒業、就活中）

面接・履歴書対策について具体的な重点ポイントをテクニックと共に説明して頂いた。すぐに役に立つアドバイスで助かった。国際開発協力の仕事は他の業界とは異なる面が多い。実際の経験を基にしたアドバイスは参考になった。私の葛藤や迷いについての質問に答えて頂いたことが、カウンセリングの中で一番貴重だった。（言語や地域を絞るべきか、途上国と先進国どちらで勤務すべきか、どの順番でキャリアを積むべきか、治安の悪い国を避けるべきか、etc.）私の経歴について、客観的なコメントを頂いたので参考になった。

Bさんのケース（開発途上国出身、日本の大学院の博士課程在籍、これまでの仕事の経験と研究を生かせる職種を検討中）

It gave me broader understanding about career options in Multilateral Development Banks (MDBs), and at the same time I could understand specifically what positions I would fit in. I found that the discussed position could accommodate both my professional experience and educational background, as well as my personal interest. I am excited to pursue this kind of career opportunity in the future. Again, thank you very much for your valuable information, insights, and suggestions. I really appreciate it.

Cさんのケース（開発途上国でNGO勤務、国連機関転職希望）

丁寧にCVの添削指導いただき本当にありがとうございます。頂いたアドバイスをもとに清書いたしました。今回いただいたアドバイスのおかげで、ただ単に自分が〇〇ができるXXに精通していると述べるだけでなく、具体例や具体手法を簡潔に記載することによって、自分の主張を説得力のあるものに変えることができることをプラクティカルに学ばせていただきました。お忙しい中にも関わらず本当にありがとうございます！

＊本稿は、SRID50 周年を記念して発行された、SRID ジャーナル第 27 号に掲載された”SRID キャリア開発事業の紹介”の要点の一部を抜粋したものです。詳細については、SRID ジャーナル第 27 号をご覧ください。「SRID キャリア開発」次号（2025 年 3 月配信予定）では、国際開発プロフェッショナル研修（IDPC）および、国際開発分野で働く女性のためのフォーラムについての紹介を掲載します。

Acting Military Advisor の United Nations Mission in South Sudan 訪問

United Nations Stabilization Mission in Mali (MINUSMA)の道路地雷撤去作業

入会のお誘い

SRID では新規会員を募集しています。興味のある方は「入会のお誘い」をご覧ください。

編集後記

北丸さんの原稿の推敲をしながら、何度も頷いている自分に気が付きました。SRID キャリア開発事業の IDPC 研修やカウンセリングの講師として、国際機関での仕事を Get するために、どんな準備をしておかなければならないのかについて体系的に説明しています。しかし、少数枠の JPO や YP を除き、空席が生じた時に公募される、国際機関の仕事とのめぐり逢いは、ある意味では By Chance です。

北丸さんの場合は、90 年代のバブルがはじけた頃、外資系金融機関の仕事や職場の雰囲気に空虚さを感じ、誰も知った人がいなかったにも拘わらず、日本赤十字社の面談の約束を取り付け、ボスニア・ヘルツェゴビナ・プロジェクトの仕事を Get しています。確かに、北丸さんは By Chance でこの仕事にめぐりあったわけですが、そこに至るまでには、北丸さんは欧米に留学をして、ジュネーブで赤十字関係の研究所でインターンをして、英語、仏語にも磨きをかけています。さらに決定的な要因としては、仕事で必要とされる、建築の知識を大学時代に学んでいたことです。

私は、Chance はどんな人にも、頻繁ではありませんが、必ず訪れるものだと思っています。大切な事は、巡ってきたチャンスを捉えられるように、日頃から色々な場所で知識と経験を積み重ねておくことだと思います。この知識と経験というのは、専門領域以外の、外国語も含め、異文化・歴史に対する理解や、他の人を尊重しながら、自分の信念を曲げずに、やるべきことをやっていく能力も含まれています。そして、チャンスに巡りあったならば、多少ドンピシャではなくても、不安があっても、与えられた機会にしがみついて、まずはその場で頑張ってください。北丸さんが書かれているように国際機関や開発の仕事の多くは「自分の仕事によって着実に誰かが助けられるという充実感」を感じることの出来る遣り甲斐のあるものです。

SRID 会員の多くが国連本部・国連機関、国際開発金融機関、日本の国際開発関係機関、開発コンサルタント企業等で開発の仕事を経験しています。それぞれが、巡ってきたチャンスを捉えて、様々なキャリアのドラマを展開してきたことだと思います。国際開発関係のキャリアについて分からない事、相談したいことがあったら、どんなことでもかまいませんので、気軽に SRID ホームページの申込フォームから SRID キャリア開発カウンセリングをお申し込み下さい。

（鈴木博明　SRID　キャリア開発事業運営委員長、「SRID キャリア開発」編集部）